



全労生・前事務局長

西澤 昇治郎

グローバル化・情報

技術革新が一層進展するなかで、超少子高齢化・人口減少という構

造問題を抱える日本が、今後も持続的成長をはかるためには生産性が必須であるとする主張が、各界各層それぞれ

れている。

このことは「生産性運動の基盤再構築と社会的拡がり」をめざし主体的に活動展開する全労生として、意を強くするところである。

しかし、真の生産性運動が理解されず、生産

の是正が大きな社会問題となっている現実があるからである。

我われは諸活動を通じて、生産性運動には①人間性概念が含まれるもの、②労使関係の

枠組みによって推進されるもの、③社会的対

## 原理・原則を大切に

### 全員参加の運動実践を

性向上のみが独り歩きすることがあってはならない。

それは、長期にわたるデフレと低成長の下で生産性三原則が疎かにされ、それが様々な格差や貧困を生み出す主要因となり、これら

ない。

同時に、運動に取り組むに当たり、①無条件に賛成するのではなく失業の増大や労働強化を伴わないものとの

確認の下に参加した、②三原則は政府も入って確認されたものであ

話が求められるもの、との運動理念を整理してきた。

また、生産性運動に取り込む大前提は、生産性三原則の誠実な履行にあり、これは普遍的なルールとして今日もその価値を失っていない。

協議が原則である、④その上に立って、生産性三原則の深化（質の向上）をはかる、との立ち位置も明らかにしてきた。

それは、緊張感のある集団的労使関係のもと労使が切磋琢磨し、原理・原則を大切に全員参加の真の生産性運動を展開することが、

良い職場を創り、産業企業の発展と生活の向上、ひいては健全な社会の発展へとつながるの確信があるからである。

生産性が改めて問われている今、我われはこのことをしっかり腹に据え、仲間の組合員

はもとより働く全ての

人々へ、そして、経営者、政府・行政、更には社会へと率直に訴え、理解・共感を拡げる運動を実践しなければならぬ。

その先頭に全労生が立ち、将来に不安のない共生可能な雇用社会の実現に繋（つな）げていくことを願ってやまない。

最後に、事務局長退任にあたり、今日までの構成産別・地方労生および各生産性機関をはじめ関係する多くの皆様のご指導とご支援に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。